

法学部に「法曹コース」設置

法科大学院と法曹養成連携協定

法学部と本学法科大学院との間の「法曹養成連携協定」が、3月1日、文部科学大臣から認定された(認定期間:4月1日から5年間)。これを受け、法学部に「法曹コース」を設置した。

「法曹コース」では、法学部と法科大学院でより効果的な一貫教育の提供を目指す。「法曹コース」への登録を認められる学生は、3年次で大学

を早期卒業し、法科大学院に進学することができるとなる。さらに、本学法科大学院の特別選抜試験の受験資格を得ることも可能となる。

これまで法学部では、早期卒業制度(3年次終了時に卒業できる制度)が可能で、法学部、法科大学院を最短で合計5年(学部3年+法科大学院2年)で修了できる。大学入学から法曹資格を得るまでの最短期間が、従

来の8年弱から約6年に短縮されることにより、経済的負担が減り時間も短縮され、法曹を目指すしやすくなる。

3月25日、専修大学から2氏に博士の学位が授与された。(氏名に続き、現職、学位の種類、学位請求論文名)

李 恩碩氏
国立加耶文化財研究所所長、博士(歴史学)、「新羅都城の成立

江口 聡氏
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科講師、博士(心理学)、「統合失調症の早期介入についての検討」認知機能障害の特徴とメタ認知トレーニングを用いた心理的介入の観点から」

法律」第6条第3項に基づき文部科学大臣の認定を受けたことから、「法曹コース」を「法曹コース」へと発展的に改組した。

高橋義仁 商学部教授 国際会議で受賞

Health 2.0 Conference Outstanding Leadership Award



受賞した高橋教授(左)

商学部の高橋義仁教授が、2月20日から22日までアラブ首長国連邦のドバイで開かれた「Health 2.0 Conference」で、Outstanding Leadership Awardを受賞した。

Health 2.0 Conferenceは、医療・ヘルスケア分野の専門家が一堂に会す世界最大規模の国際会議。高橋教授が受賞したOutstanding Leadership Awardは、認知度や業績、創造的思考など5項目において

特に優れ、業界をけん引するリーダーとして期待される人物・企業に贈られる。

高橋教授は、武田薬品工業でマーケティングや経営企画などに従事した後、学術界に転身し、2008年に本学着任、10年にPhD、12年から現職。専門は経営戦略論で、「企業組織」などの授業を担当している。今回の受賞では、ヘルスケア領域の産業・学術両分野での長期間の貢献や、製薬/バイオビジネス研究会の創設、ヘルスケア領域を中心とする報道メディアへの貢献、10年以上にわたる海外向けの情報発信などが高く評価された。

高橋教授は、「活動内容をグローバルに発信してきたことが評価されてうれしい。今後も産業界と学術界をつなぎ、双方の発展に貢献したい」と語った。

社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点

国際シンポジウムを開催



8カ国・地域の研究者が参加した国際シンポジウム

社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点(研究代表者:嶋根克己人間科学部教授)は、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センターとの共催による国際シンポジウムを、2月7、8日に生田キャンパスをメイン会場にオンライン併用のハイブリッド形式で開催した。

7日午前には、研究者の国々における研究データ収集と共有の実践と課題が発表され、ディスカッションを行った。午後は、「Follow-up Surveys of Social Well-Being Survey in Asia (SoWSA)」と題して、台湾中央研究院の蔡明璋氏が講演を行った。

8日午前には、2022年度から手掛けている研究拠点形成事業の若手共同研究の進捗状況の報告がなされた。午後は、公開シンポジウムとして「The 8th Conference of the International Consortium for Social Well-Being Studies」を開催した。

国際シンポには日本及びアジア7カ国・地域(タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、モンゴル、韓国、台湾)の研究者43人が参加した。ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点の金井雅之人間科学部教授は「これまで積み重ねてきたさまざまな研究プロジェクトの成果報告と今後の展開を話し合う、充実したシンポジウムになった」と述べた。

就職だより

4年次生へ就職活動も選考活動が活発になり、いよいよ佳境を迎えるかと思えます。選考が思うように通過しない場合は、キャリア形成支援課の相談を活用して、提出書類や面接の内容を一度見直してみよう。焦りや不安があるよう、冷静な判断ができなくなります。どんな内容でも構いませんので、ぜひ活用してください。

また、引き続き悪質なエージェントや就活塾に注意してください。

図書館 春の企画展



図書館春の企画展「春」を中心に、妖怪や幽霊、化け物など異界のものたちを題材とした資料を展示する(新収蔵含む)。

生田キャンパス 4月15日(月)~5月15日(水) 10時~16時

神田キャンパス 4月22日(月)~5月22日(水) 10時~16時

※オンライン配信あり

図書館 12階 1200-1630

生田キャンパス 10階 1000-1630

神田キャンパス 10階 1000-1630

お問い合わせ: 044-911-1274

3年次生へキャリア形成支援課ではキャリア形成・就職等についてのさまざまな相談を受け付けています。WEB相談、対面相談どちらでも構いませんので、ぜひ活用してください。

公開講座情報

シンポジウム「裁判員制度15年の成果と課題」

法律関係者、新聞記者、市民団体の方や裁判員経験者、これまでの歩みを振り返り、今後の課題と展望をめぐり意見交換を行う。

▽日時:5月11日(土) 13~17時

▽場所:神田キャンパス 10階 1000-3階

黒門ホール

※オンライン配信あり

申込: 044-911-1274

6氏に名誉教授称号



専修大学名誉教授称号記授与式が4月1日、生田キャンパスで行われた。佐々木重人学長、松本健一理事長、日高義博総務長らが列席し、次の6氏に称号記が授与された。

加藤浩平元経済学部教授
大林守元商学部教授
小藤康夫元商学部教授
田中和雄元商学部教授
柳裕治元商学部教授
佐野裕志元法科大学院教授

神田キャンパス 4月22日(月)~5月22日(水) 10時~16時

※オンライン配信あり

申込: 044-911-1274

インタビュー大全 相手の心を開くための14章

大塚明子 著

雑誌やWEBの記事などさまざまなメディアで筆者が行ってきたインタビューから得たデータを学術的に分析、「人から自然に話を引き出す」ために必要なストラテジーを体系化した。

中途終了型発話や相づち、スピーチレベルのシフトダウンといったボライトネスの観点から、あるいは共感的理解、自己

開示など心理学に関する観点から、インタビューの言語行為やふるまいを観察・分析し、相手が能動的に話そう導くストラテジーを解説。ビジネスシーンでのヒアリングや日常のコミュニケーション力の向上にも役立つ内容である。

会話コミュニケーションのテキストとしても使えるよう、「練習問題」を設けたほか、コラムも添えて、インタビューにまつわる理論と実践と学習を集約した1冊となっている。(田畑書店・税込2200円)

著者おおつかめいこ 国際コミュニケーション学部兼任講師。言語学。

中堅・中小企業のイノベーション創出と産業集積地の将来

SDGs・カーボンニュートラルをふまえた検討

遠山浩 著

本書は中小・中堅企業のイノベーション創出が日本の経済成長を支えてきたと捉え、日本復活の鍵はその機能の回復にあること、そのためには都市部の産業集積が地方や東アジアに広域する下で達成されると説く。また集積地として選ばれたためには工業団地をカーボンニュートラルにする等

日本の地方都市は東アジアの国々がライバルとなる。第5章以下で都市型産業集積の広域化が進んでいくためには、産業集積に応じた金融が求められること、および社会企業家の可能性について述べている。(専修大学出版局・税込3740円)

著者:とやまこう

経済学部教授。中堅企業

の対応が必要となる。第1章でイノベーションの担い手である中堅企業を考察。第2章以下で各地の事例研究を行い、イノベーションの核となる都市部の川崎市、広域化の対象として中国深州市、地方都市として静岡県富士市と福島県いわき市を紹介している。